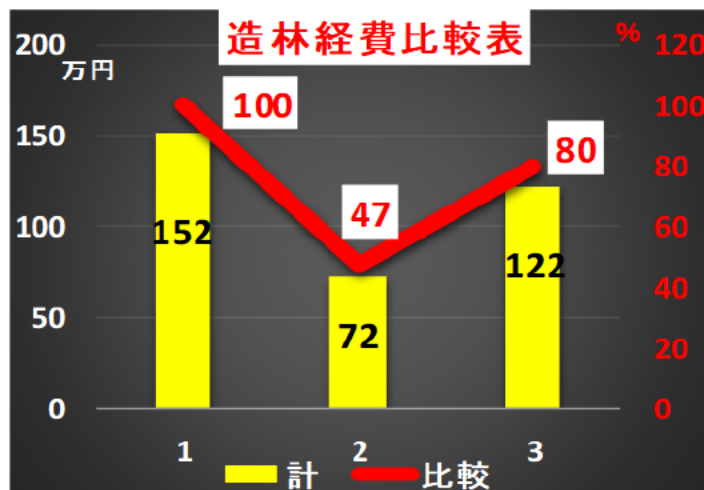
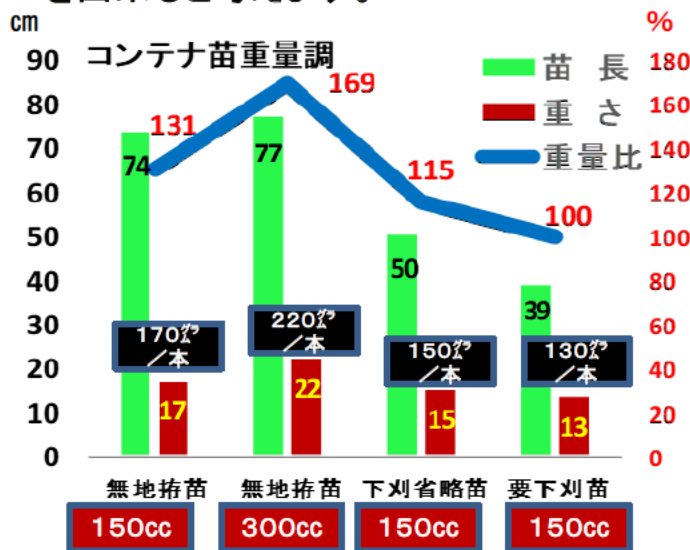
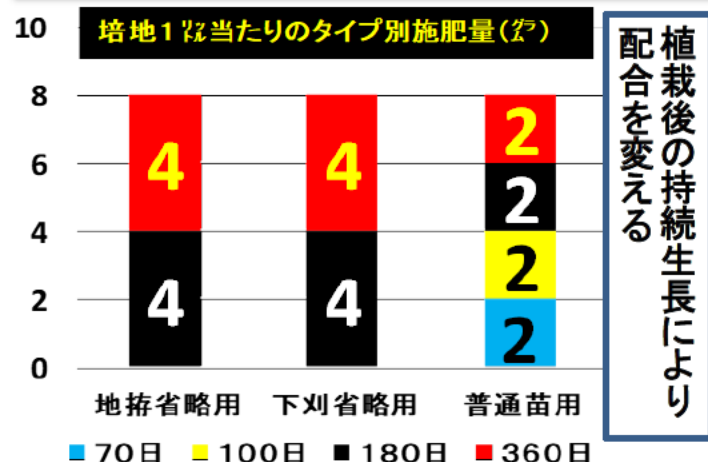
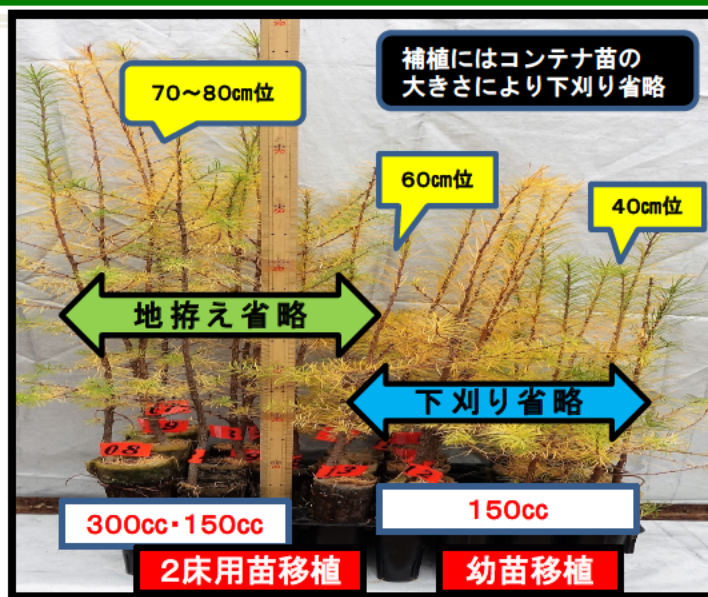


研究目的・内容

- ・ 基肥→緩効性肥料→持続生長
- ・ 追肥作業省略
- ・ 育苗期間の大幅短縮(夏季山出し可)
- ・ 育苗経費の削減
- ・ 地拵え省略による経費の削減(50%)
- ・ 下刈り省略による経費の削減(20%)

今後の展開

植付の増・下刈の増・労務者の減少・造林経費の削減対策として、積極的に取り入れていくことが必要です。また、コンテナ大苗は通常のコンテナ苗よりも重くなりますが、苗木小運搬等を考慮すれば差ほど影響は少ないと考えます。生産者は需要があれば1成長期で出荷する技術を持っております。更新する全面積を対象にするのではなく、出来る箇所から行えば良いのです。耐鼠性のあるグイマツ雑種F1のコンテナ苗の増産、緩効性肥料を使つての持続生長する苗無地拵え・下刈り省略で造林経費の削減を出来ると考えます。



- 1 通常行う地拵・植付・苗木代・下刈合計経費
- 2 地拵・下刈を省略した場合の経費
- 3 下刈を省略した場合の経費